郷土摂津 いにしえ通信

第38号　平成13年6月1日

発行　摂津市教育委員会　生涯学習部生涯学習課

〒566－8555　摂津市三島一丁目1－1

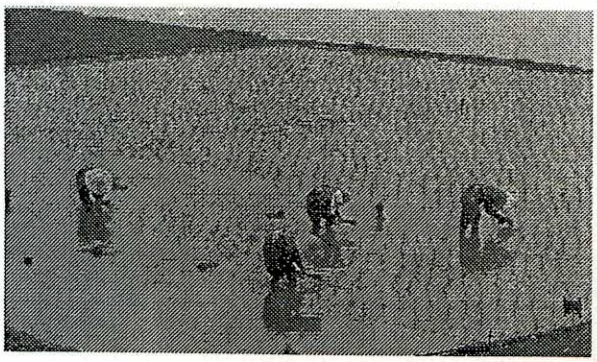
℡（06）6383－1111　℡（0726）38－0007

ホームページアドレス　http://www.city.settsu.osaka.jp/

第3回　6月　田植え

わがまち　ちょっと昔の生活

昔から田植えはその日のうちに済ませるものとされ、短期間に時期をのがさずに行うため、ユイなど労働力の交換を前提とした共同労働の風習が生まれました。田植えは「ゆがみ八石直ぐ九石」などといわれていますが、古くは田の形に沿った回り植や車田植が一般的であり、正条植は静岡県や千葉県の一部を除いて明治時代以前にはみられませんでしたが、明治時代の半ばすぎから全国的に奨励されるようになり、田植綱や田植枠・田植定規が用いられるようになりました。「民俗探訪事典」より。



摂津市域の田植え風景

年代・場所とも不明

田植えは古くは女の仕事、男がするのは新開地ということになっていましたが、摂津市域では、田植えは一家総出で男も子供も手伝いました。

平成8年度　聞き取り調査より

昔は五月雨（梅雨）の雨が頼りでしたから、旧暦で5月、新暦で6月が田植えの季節でした。摂津市域では、鶴野が6月初め、一津屋が6月15～20日、鳥飼中が6月10～20日、千里丘が6月19日前後、千里丘東が6月15日～18日・22日～23日となっていたそうです。「摂津市の民具とくらし」より

講座や展示のご案内、活動報告など多彩な文化財情報を毎月お知らせします。

また、このページでは皆様の投稿を募集しています。

平成13年度 ふるさと摂津講座

摂津市の歴史を学ぶ講座です.講座は全10回を予定しています。摂津市にゆかりのあるテーマを選択し多彩な講師をお招きします。

【期間】平成１３年６月から
　　平成１４年３月まで
【会場】摂津市総合福祉会館
　　第１会議室
【対象】歴史に関心のある方
【定員】１００名
【主催】摂津市教育委員会
※受講料は無料です。

申し込み　**6月15日（金）必着**

官製はがきに、住所・氏名・年齢・電話番号を記入のうえ下記までお送りください。
〒566－5888　摂津市三島１－１－１
摂津市教育委員会　生涯学習課　生涯学習推進係

日　時	内　容	講　師	会　場
6月20日	玩具から見た摂津（竹とんぼ）	濱口新次氏	福祉会館　第１会議室
7月18日	須佐之男命神社	塩見庄次郎氏	福祉会館　第１会議室
8月22日	摂津の古建築	牧顕氏	福祉会館　第１会議室
9月19日	綿と摂津	井岡順子氏	福祉会館　第１会議室
10月17日	フィールドワーク 亀岡街道の歴史散策	吉谷敏子氏	相川駅から千里丘駅まで
11月21日	砂川捨丸とワッハ上方	若月信行氏	福祉会館　第１会議室
12月19日	蜂前寺跡発掘調査	伊部貴雄（市職員）	福祉会館　第１会議室
1月16日	茶と摂津	杖本みどり氏	福祉会館　第１会議室
2月20日	フィー　ルドワーク 茨木市立文化財資料館見学	茨木市立 文化財資料館職員	茨木市立文化財資料館
3月20日	力石	茗荷充幸（市職員）	福祉会館　第１会議室
◎講座はすべて、水曜日の午後２時から４時までです。			

お問い合せ　生涯学習課　生涯学習推進係まで　TEL06（6383）1111・0726（38）0007

郷土史コーナー

意外と身近な郷土の歴史を紹介していきます。

味生（あじふ）の歴史

はじめに

味生とは、旧地域の一津屋と別府と新在家を示します。

当地は古墳時代頃まで河内湖の北辺にあたっており、淀川・安威川などに絶えず洗い流されていたこともあって、遺跡の検出は少ないです。奈良時代には鯵生野（あじふの）とよばれた地で、典薬寮領味原牧（あじふまき）に含まれたといわれています。江戸時代は純農村地帯でしたが、低湿地のため裏作は十分に行われていませんでした。また、淀川・安威川・神崎川に沿うため、水運に携わる者も多かったようです。一津屋村には淀川の、別府村には神崎川の渡場があり、淀川・神崎川を運航する過書船のうち、道難衆中船は一津屋と別府の二村を本拠地としていました。神崎川は、かって一津屋で北に向きを変えて味舌下村で安威川と合流していましたが、明治１１年（１８７８年）、一津屋から吹田まで西に直進する新河道が開削されました。明治２２年の町村制施行により、味生村が成立しました。

一津屋村

一屋村とも書きます。「建内記」嘉吉二年の条（１４２２年）に、土一揆の蜂起を避け、東寺口（現京都市南区）の禁裏御厨子所の関所を「摂津国鳥養内一屋辺」に移したことがみえます。淀川・神崎川分岐点にある当地が、対岸にある古代以来の要津江口とともに、淀川舟運のうえで重要な役割を果たしていたことがわかります。

農作物には米のほかに綿があり、文化元年には毛付二町余であったと古木家文書に書かれています。農間余業として男は藁細工、女は木綿稼に従事しました。また、村内では酒造も行われていました。文政十二年（１８２９年）の紅屋酒造株引分け別造貸し名前帳（清水家文書）に、島上郡富田村（現高槻市）の紅屋の酒造株のうち二十五石を当村喜兵衛が借受けていたとあります。淀川対岸の河内国茨田郡八番村（現守口市）との間に一津屋渡があり、大切渡とも駒頭渡ともいいました。「一津屋村志」によりますと幅三〇七間余、明治九年（１８７６年）頃に渡船が二艘あり、私渡でした。また同書には五〇万石未満の荷船を十六艘保有するとあります。

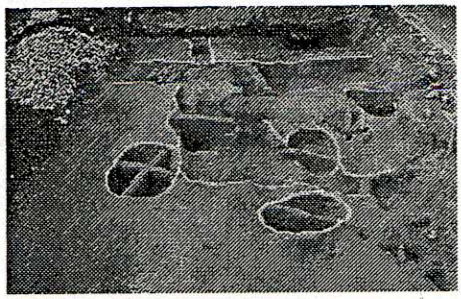
なお、当村は淀川の幕府御用船の綱引人足を出す綱場でもあり、天保１３年の琉球人江戸参府時には人足を負担しています。

「平凡社・大阪府の地名」より　　担当　（茗荷）

第3回 埋もれた摂津市の歴史

発掘調査で明かになる摂津市の埋もれた歴史をシリーズで紹介します。

平成9年度 蜂前寺跡 1次調査



調査区全景（南から）
上部に東西方向の溝と上（北）から下（南）方向に展開する溝と楕円形の土坑４つが見られます。平成９年６月撮影

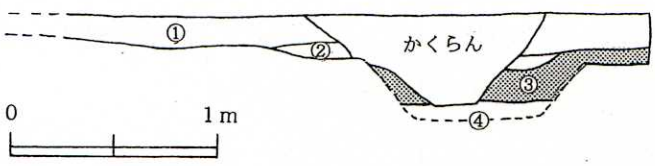
確認された遺構　このときの発掘調査では、須恵器甕埋納遺構・溝状遺構２・土坑４みつかりました。すべての遺構が整地層の直下、赤褐色粘質土からの検出です。

溝状遺構

２つの溝状の遺構が検出されました。１つは、調査区を南に向けて6.3mの位置で東に屈曲する鍵状の溝です。最大幅 1.8m、深さは10cm～40 cmを計ります。埋土は暗黄褐色砂質土です。この埋土は均一性が高く一気に埋まったような状況でした。この溝からは須恵器・土師器の破片が少量出土しましたが、時代の特定は困難な状況でした。もう一つの溝は、調査区の北半を東西方向に流れる溝です。最大幅は 1.7mで深さは均一的に 30 cmでした。この溝は遺物を多く含み粘土質が強く生活のなかで徐々に埋もれていった状況でした。この溝からは土師皿・瓦などの遺物が比較的多量に出土しました。時代は 14 世紀から 15 世紀にかけての中世（鎌倉時代・室町時代）のものです。これら２つの溝は時代や埋没の過程が異なり、違う用途で掘削されたようです。

担当　（伊部）

凹面に吊り紐痕を残す瓦
ループ状に垂らした紐の痕が見られます。13 世紀以降に見られる技法で、14 世紀には強く垂らすものが出現します。



調査区断面図（北壁）

①整地層　②濁黄褐色砂質土
③赤褐色粘質土　④黄橙色砂質土